

ごせき晩生小松菜と金町こかぶの栽培のてびき

小松菜とかぶの発芽最適温度（種から芽が出るちょうど良い温度）は20～25℃です。

最低発芽温度は6℃くらいです。

生育最適温度（のびのびと育つ温度）は15～25℃です。

小松菜とかぶはどちらもアブラナ科の野菜ですので、基本的な特徴は似ています。

ごせき晩生小松菜・金町こかぶを11月以降に外の庭やベランダ等で蒔く場合は、しもよけのため不織布などでべたがけをして寒さから守ってあげてください。

11月～3月に外の庭やベランダのプランターで種を蒔きべたがけなどを行わない場合、外は寒いので発芽しなかったり生長がととても遅くなったりします。（発芽・生育適温は何度だったかな？）

また低温に一定期間遭遇してしまうと小松菜・かぶに花が咲いてしまうこともあります。

小松菜・かぶの特徴として最低気温10℃以下の低温を一定期間受けてしまいますと、その後的高温でいっせいに花が咲いてしまいます。（春の菜の花畑を思い出すと納得しますね！）

11月～3月に蒔く場合は小型のコンテナやプランターを利用し、種をまいておうちの中で育ててやると寒さの問題はクリアーできますね。その時の注意点として、植物なので水と日光を十分に確保し光合成させてあげてくださいね。

3月中旬以降は外に蒔いて何もかぶせなくとも蒔くことができます。ただし虫の活動も活発になりますので、虫除けの網・不織布等で守ってあげるときれいなものが採れるでしょう。

自分で大切に育てた野菜はとてもおいしく感じるものです。昔ながらのなつかしい味わいの江戸野菜をうまく育てて味わってください。